

情報モラル教育実践授業報告書

対象学年	高校2年生
領域	教科指導 (科目 情報処理)
指導項目	情報モラル

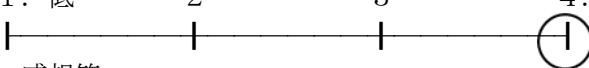
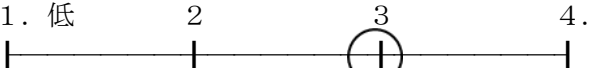
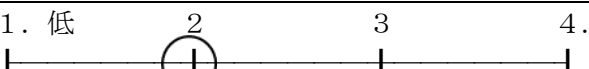
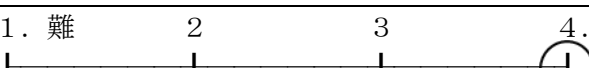
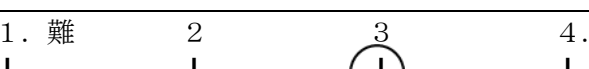
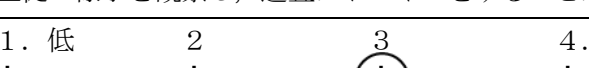
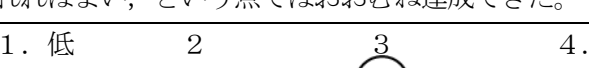
情報モラル指導モデルカリキュラム (http://kayoo.org/moral-guidebook/model/model-curriculum.html)			
指導分野	公共的なネットワーク社会の構築		
コード	i5-1	指導事項	ネットワークの公共性を維持するために、主体的に行動する。

授業前の生徒の状況	情報機器の活用には慣れ、善悪の判断をつけることはできるが、ネットに依存していたり、無責任な書き込みを信じたり、深く考えることなく書き込んでしまったりする生徒がいる。
期待される生徒の変容 (ねらい)	情報発信の際に、情報機器の特性を踏まえて、発信してもよい情報を適切に判断するとともに、プライバシーの侵害に十分配慮できる。また、好奇心で情報を検索したり書き込んだりせずに、健全なネットワーク社会の構築について、主体的に関わることができる。
生徒の変容を促すための授業の工夫 (ポイント)	<ul style="list-style-type: none"> ・「情報を誰かに知らせたい」 (自分が書き込む場合) 「情報を知りたい」 (書き込みを読みに行く場合) 「流された情報が自分のことだったら」 (自分が書き込まれた場合) の3つの視点から、情報機器の正しい活用について考えさせる。 ・自分が体験や、身近なところで起こった事例などを共有させる。
利用するコンテンツ等 (サイトのアドレス) または資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・ ネット社会の歩き方 http://www2.japet.or.jp/net-walk/ 「うわさやデマを発信しない」 「おもしろ半分の投稿で人生だいなし!？」 「おもしろ半分では無責任」「ネットで悪口は要注意」 等 ・ 愛知エースネット「情報モラル指導用プレゼン教材」 http://www.aichi-c.ed.jp/contents/j_moral/presenhome.html 「人の気持ちを考えて使っていますか？」 等

ワークシート

使用する教材に応じてワークシートを用意する。ただ、ワークシートには設問事項はあらかじめ記入しない。記入事項は、そのつど口頭で伝えることによって、指示通りに学習活動に取り組み、書いたり話し合う時間を確保するようにした。

評価

生徒について	生徒の 興味関心の度合い	1. 低 2 3 4. 高  理由・感想等 ネット・トラブルに関する興味はある。今回のテーマについては、身近な問題をテーマに設定したため、導入としてはよかった。
	生徒の理解度	1. 低 2 3 4. 高  理由・感想等 良いことと悪いことの判断はできるが、実際に適切に行動できるかは判断できない面がある。
	生徒の 変容の度合い	1. 低 2 3 4. 高  理由・感想等 三つのテーマで変容の度合いが分かれる結果となった。分かっているがやめられない、という結論もあった。
授業について	事前準備の難易度	1. 難 2 3 4. 易  理由・感想等 ワークシートはできる限りシンプルに作成すればよい。また、難しいテーマを設定せずに、身近な話題を取り上げるとよい。
	指導者にとっての 授業展開の難易度	1. 難 2 3 4. 易  理由・感想等 予想もしなかったところで、生徒の活動が止まってしまうことがあるので、生徒の様子を観察し、適宜アドバイスをすることが求められる。
	授業の「ねらい」の 達成度	1. 低 2 3 4. 高  理由・感想等 高い達成度を求めるつもりはないが、生徒自身が考えるきっかけになってくれればよい、という点ではおおむね達成できた。
	指導方法の 効果の度合い	1. 低 2 3 4. 高  理由・感想等 グループワークに慣れていない状況であったので、最初は戸惑いもあったが、徐々に慣れてきて活発な意見交換が進んだ。

<実践の感想及び反省点等>

高校生にもなると、やってよいこととやってはいけないことの区別はできる。少なからず不快な経験もしている。そのため、自分がやられたら嫌なことは、他人に対してやってはいけないということは理解している。しかし、現実として取り返しのつかないことがネット社会では起こってしまっている。その前に、一線を越えないように踏みとどまる冷静な判断力と勇気をもつことを意識させることをねらいとした。モラルとは人の心の中にあり、それをいかに行動に結びつけられるかが鍵であると思う。しかし、目に見えない心の変化を、成果として評価するには無理があり、今回の授業がどこまで目的を達成できたかが判断できない。そこが難しいところであろう。ただ、高校生として、他人の気持ちを理解し、事態の予測ができ、ネット社会にうまく対応できることができる大人に成長してほしい。

実践例

配当時間		学習のすすめ方	指導のポイント
導 入	10 分	1 インターネット上の情報の信頼性や、情報発信時の留意点を伝える動画教材またはプレゼン教材を見る。 2 各自で、ネットに関するトラブル事例（最近の出来事・自分が嫌な思いをしたこと）を思い出し、ワークシートに書き込む。 3 5人～6人のグループに分かれる。 4 グループ内で、トラブル事例について発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループはランダムな構成がよい。 ・身近なところでトラブルが発生していることに気付かせる。
展 開	35 分	5 次の三つの立場について、それぞれ、どうすればトラブルを避けることができるか、トラブルに巻き込まれた場合どう対応すればよいか、ワークシートに記入する。（個人） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> テーマ①「情報を誰かに知らせたい」（自分が書き込む場合）という立場だったら。 テーマ②「情報を知りたい」（書き込みを読みに行く場合）という立場だったら。 テーマ③「流された情報が自分のことだったら」（自分が書き込まれた場合）という立場だったら。 </div> 6 グループで、上の三つの立場について、どうすればトラブルを避けることができるか、トラブルに巻き込まれた場合どう対応すればよいかを話し合う。 7 グループで話し合ったことを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマが書かれたカードを用意しておく。 ・一つ答えが出て終わりではなく、さまざまな視点から考えるように促す。 ・進行係と発表係（書記係など）を班内で決めておく。 ・グループ内の話し合いの様子を観察し、ときにはアドバイスを与える。
ま と め	5 分	8 いつ、どこでも起こりうることと、他人事ではないことを確認する。 9 ネットワークは公共のものであって、私的なものではないことを確認する。	